

被爆74周年原水爆禁止世界大会 福島大会報告

水沢高校分会・非専従執行委員 佐藤 貴之

7月27・28日、福島県で開催されました。

27日は、福島県教育会館で全体集會が開催されました。震災犠牲者への黙禱で始まり、主催者、地元代表他の挨拶があり、第22代高校生平和大使として活動している地元高校生2人の訴えがありました。東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故被害からいまだに復興できない現状と、高校生を含めた生活の窮状の訴えと、平和大使として活動していく決意が語られました。

そのあとのシンポジウムは、「福島的生活再建について」「県民の健康について」「県外から見たフクシマ」の3つの観点で意見が交わされました。

ついで、福島県教育会館から福島県庁へ向けて、デモ行進が行われました。

28日は、バスで福島第一原子力発電所被害地を周るフィールドワークが行われました。福島市から1時間半程度をかけ、福島第一原子力発電所が立地する大熊町へ出て、全町避難に関する説明を聞き、町の現在の状況を視察しました。ついで、隣接する双葉町、飯館村を視察しながら、いまだに帰還が制限されている様子を見てきました。そこには、除染廃棄物が山積みされている様子、居住制限がされている住居一軒一軒にバリケードが張られている様子、防犯の必要性から警察のパトロールカーが頻繁に巡回している様子など、その異様さに言葉に言いつくせないものを実感しました。

山田高校分会 山口 晋也

7月27日福島県教育会館で開催された「被爆74周年原水爆禁止世界大会」に岩手県参加団11人の一人として参加しました。全体集會に先立ち東日本大震災・福島原発事故関連死された方々に黙禱を捧げ、則松佳子大会副実行委員長と福島平和フォーラム角田政志代表からの挨拶、そして8月にスイス・ジュネーブの国連欧州本部で核兵器の廃絶と平和な世界の実現を発信する第22代高校生平和大使の齊藤帆香さんと赤沼優希さんからの訴え、藤本泰成大会事務局長からの大会基調提起、その後「被災者の生活再建・健康問題と脱原発」のシンポジウムと「福島原発事故と再稼働」の特別分科会が行われ、最後に「核と人類は共存できない」ことを原点に、原発も核も戦争もない平和な社会の実現に向けともに前進しましょうと「フクシマアピール」を採択し大会を閉じました。去年は二階フロアにも参加者がいたのが今回は、約半数程の七百人弱にとどまり、特にも若い世代の人が少なかった。

しかし、それは原発事故の風化がすすんだり、関心が無くなったわけではなく、「差別」を受けるのを恐れて声を上げられない若い人たちが沢山いるということを知りました。かつて、広島・長崎に原爆が投下され、「ピカドン」を見たと話すと被爆者であると判断され、学校や職場内でいじめや差別、結婚も出来なかったことが福島原発事故によっても起きているのだということを知りました。7月31日、福島第二原発の廃炉が正式に決定しました。40年超の期間と二千八百億円の費用が見込まれますが、計画どおりすすみ、福島の復興・発展がすすむことを祈ります。

